

歌舞伎町の女王

本調子

合 工 上 尺 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上

合 工 上 尺 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上 尺 上

合 王 五 八 七 七 五 尺 合 八 七 五 八 四 乙 合 上 王 五 八 七 七 五 尺 上 八 七 五 八 四 乙 合
せみのこえをき くらびに めにつかぶくじゅくりはま

七 五 七 五 七 七 七 五 七 五 七 五 六 七 七 八 八 七 五 五 王 尺 八 八 七 八 五 尺 上 尺
しわしわの そぼのてをはなれひとりでおとずれ たかんらくがい

合 王 五 八 七 七 五 尺 合 八 七 五 八 四 乙 合 上 王 五 八 七 七 五 尺 上 八 七 五 八 四 乙 合
ままは「このじょうお うさま いきうつしのようなあ たち

七 五 七 五 七 七 七 五 七 五 七 五 六 七 七 八 八 七 五 五 王 尺 八 八 七 八 合 合 七 八
だれしもが てをのべてこども ながらにみせられたかんらくがい じゆ

八 七 尺 八 五 五 五 王 尺 工 五 五 五 七 五 七 八 八 王 王 尺
うご に なっ たあ たしを おいてじょうおう はき えた まい

八 七 尺 八 五 五 五 王 尺 工 五 五 七 八 五 五 尺 王 合 工 上 尺 尺 上
しゅぎん ようびに きてた おとことくらすのだ ろつ

尺 上 尺 尺 上 尺 上 合 工 上 尺 尺 五 尺 八 七 七 六 王 六 九 乙 五 七 九 八 八 七 工
いちどさかえし

乙 九 八 七 九 八 七 五 乙 五 七 九 八 八 七 王 乙 九 八 七 九 八 七 五 八 七 八 七 八
ものでも かならずやおと ろえゆく そのいみを する

八 七 八 七 七 八 八 九 九 八 七 六 五 工 九 八 九 五 五 八 九 九 八 工 九 六
ときを むかえあしをふみ いたはかんらくがい きえて いったあ

七 六 五 王 五 六 七 七 八 七 八 九 九 工 王 八 九 九 八 工 九 六
んなをにくめどな っ はいま じょうおうと いうかた

歌舞伎町の女王

本調子

2 / 3

がきを ほらら しげ にか かげ る

七六五 一五六七八九七六五 五五 五 五五五五五 五 五九八七

八七 五五五五五 五 五中工中乙 五 中工工中工 中工 上中工

乙五 中工工中工 中工 上中工乙五七中上上七工 中上七中八七五

尺五七中上上七工 中上七中八七五上五七中上上七工 中上七中九八九

四五七中上上七工 老 おんなになつたあたしがうるの
八九九 八 工 九六 七六五 王五六

はじ ぶんだけで どうじょうを ほつしたとき すべて
七七 八 七八九 尺九尺九 九 尺 八 工 九六 七六五 王五六

をうしなうだ ろう じえいあゝる しんじゆく えきの ひがし
七八九七六五 五七九八七九 九 尺 八 工 九五 九八七 王五六

ぐち をでたら そこはあたしのわ だいゆ
七七 八 七八九 尺九尺九 九 尺 八 工 九六 七六五 王五六

うぎば かぶき ちょう
七八九七六五 五七九乙 八七 八合中上上老九八七八中七上乙中上乙

老乙工四五七五 乙四中上上四工 中上四中 乙四中上上四工

五 工 六

歌舞伎町の女王

本調子

3/3

一、蝉の声を聞く度に 目に浮かぶ九十
九里浜
皺々の祖母の手を離れ 独りで訪れ
た歓楽街

ママは此処の女王様 生き写しの様
なあたし
誰しもが手を伸べて 子供ながらに
魅せられた歓楽街

十五になったあたしを 置いて女王
は消えた
毎週金曜日に来ていた男と暮らすの
だろう

「一度栄えし者でも必ずや衰えゆく
」
その意味を知る時を迎え足を踏み入
れたは歓楽街

消えて行った女を憎めど夏は今
女王と云う肩書きを誇らしげに掲げ
る

女に成ったあたしが売るのは自分だ
けで
同情を欲したときに全てを失うだろ
う

J R 新宿駅の東口を出たら
其処はあたしの庭 大遊戯場歌舞伎
町

今夜からは此の町で娘のあたしが女
王